

公開シンポジウム

法政大学 言語・文化センター主催
法政大学 文学部哲学科協賛

マテリアとしての記憶 ～心の奥底から生成するイメージと思想～

【趣旨】

単なる過去の想起ではなく、原初的で抗いがたい力、感覚、欲望などをともなってイメージ形成・思想形成を強く促す記憶の働きについて考察をすすめる。ボードレー、ベンヤミン、バタイユ、日本の近代詩人などの先鋭な言葉を手掛かりにしながら、歴史、文学、イメージ論、近代批判論などの領野を横断していく。「精神」という視点ではおさまりきれない記憶論、すなわち物質的に肉迫してくるリアリティーを対象にした記憶論をあらたに切り拓きたい。

【ところ】

法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 26階スカイホール

【とき】

2015年12月20日(日) 13:00～ (12:30開場)

【参加費】 無料

【プログラム】

13:00-13:15	ご挨拶と問題提起	「ヒロシマの動物的記憶」	酒井健
13:15-14:00	バタイユ	「目と記憶」	大池惣太郎
14:00-14:45	ボードレー	「記憶の羊皮紙は破れない」	鈴木和彦
15:00-15:45	ベンヤミン	「北方の都市ベルリン」	岡本和子
15:45-16:30	日本近代詩人	「体験を潜りぬける言葉たち」	小林レント
16:40-17:30		総括	4人の発表者と司会者

※総括において予め会場に配布しておいた質問用紙にも適宜対応する